

# 助産雑誌 Back Number

## ★バックナンバーの取り扱いについて

- ①2015年10月号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL:03-3817-5666)にて承ります。
- ②それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記へお願いいたします。

株式会社東亜ブック

〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11

TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539

2017年9月号



特集

### とても大事な 産後2週間健診

研究結果をもとに母親のメンタルヘルスケアを重視して、2017年度から産婦健康診査事業で産後2回分の健診費用の助成が開始されました。本特集では、すでに産後2週間健診を実施している施設の実践例を参考に、早期の産後健診がいかに重要かを考えます。

2017年8月号



特集

### 大学院で助産を 学び直す

臨床現場で湧き出た疑問を原動力に、大学院での学び直しを考えている助産師も少なくないようです。大学院教育の動向および展望、学び直すことの意義、そして実際に大学院で学んだ方に体験を語っていただきました。また、7つの大学院の特色についても紹介します。

2017年7月号



特集

### 妊産婦の筋・骨格を理解して 助産ケアへ活かす！

妊娠を機に、女性の身体は変化します。筋・骨格を意識した身体の構造を理解することが、効果的な助産ケア、ひいてはスムーズな分娩につながります。今回は理学療法分野の専門家にも、根拠がより明確になる情報をご提供いただきました。

2017年6月号



特集

### 超音波検査の今と 助産師のかかわり方

欧米と比較し、日本での妊娠中の超音波検査の回数は突出して多いとの指摘があります。特集では、超音波検査についての知識を整理し、日本における実施状況を俯瞰で見るとともに、医師・助産師の視点を共有し、超音波検査について改めて考えたいと思います。

2017年5月号



特集

### がんばってます、 新人助産師教育

新人助産師を迎える季節です。新人助産師は入職して何にいちばん困るのか、また先輩助産師および管理者はどのような工夫をしているのか。各施設で力を入れている新人助産師教育プログラムを紹介していただき、よりよい新人教育について考えます。

2017年4月号



特集

### 周産期のメンタルヘルスのために 助産師ができること、すべきこと

近年、日本の産後うつ病の発生率は依然10%を超えています。日々妊産婦と接する助産師には、予防へのかかわりに期待がかかるでしょう。そこで、周産期のメンタルヘルスケアの社会的動向や、精神医学の基礎知識を解説し、具体的な施設での取り組みを紹介します。

2017年 特集

3月号 産後ケアを成功に導くコツ

2月号 院内助産の新しい形 クリニック・病院併設助産所の取り組み

1月号 麻酔分娩に、どう向き合うか

2016年 特集

12月号 赤ちゃんのもつ力を最大限に引き出す母乳育児支援

11月号 開業助産師の実践する助産ケア 後輩に伝え、残しておきたいこと

10月号 周産期救急で助産師ができること

9月号 オキシトシンと妊娠・出産・育児の関係